

交通安全年間スローガン

◎山口県

住みよい山口 いつも心に 交通安全

◎全国

☆運転者（同乗者を含む）に呼びかける部門

○守ろうよ チャイルドシートで 子の未来

☆歩行者等に呼びかける部門

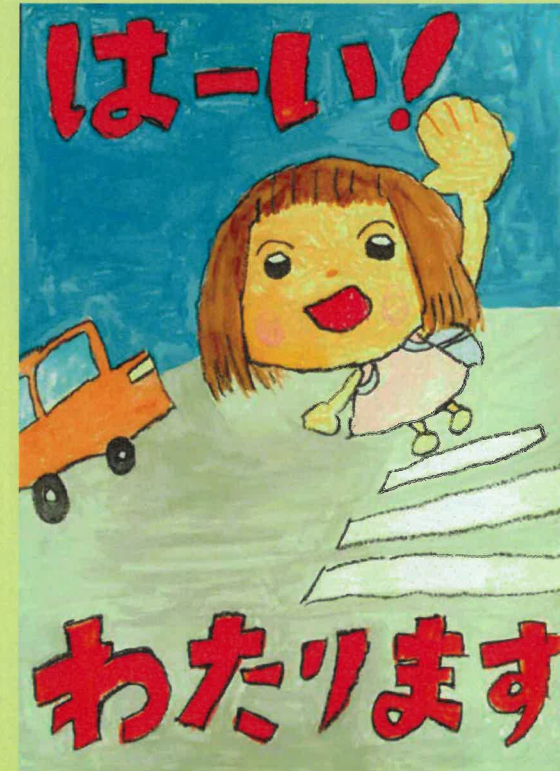
○危険です ながらスマホで 踏むペダル

☆子どもたちに交通安全を呼びかける部門

○青だけど 自分の目で見て たしかめて

令和6年度 交通安全作文募集
優 秀 作 品 集

交通安全



令和6年度 山口県交通安全ポスター最優秀賞作品
(宇部市立 神原小学校1年 仲井 日和)

一般財団法人 山口県交通安全協会

は じ め に

「住みよい山口 いつも心に 交通安全」交通事故のない、住みよい山口県はみんなの願いです。このためには、県民一人ひとりが交通ルールと交通マナーを守り、そのことを習慣つけることが何よりも大切です。

この作文集は、令和六年秋の全国交通安全運動の一環として、各警察署、各地区交通安全協会及び各教育委員会並びに各学校のご協力により、県下小・中学生から寄せられた四三八点に及ぶ交通安全作文の中から優秀な作品を選び編集したものです。

作品はどれも、こどもの立場から見た交通安全についての貴重な意見や考え方が素直に述べられています。

本冊子を交通安全意識の普及・啓発と交通事故の防止に役立てていただければ幸いです。

令和七年一月

一般財団法人 山口県交通安全協会

会 長 村 田 常 雄

もくじ

小学校の部

最優秀

- みんなにありがとう
- 守ろうルール、守ろう命

優秀

- いのちをまもるために気をつけたいこと
- おうだんはどうは手をあげて
- 「ありがとうの気持ち」
- みんなでつくる交通安全

優良

- 交通ルールをまもろう
- 「交通ルールを守ることに」

防府市立松崎小学校

二年

岸本真穂

防府市立小野小学校

四年

吉原叶梨

周南市立德山小学校

二年

重安優奈

山口市立井関小学校

二年

片岡直之

周南市立德山小学校

四年

武居玄樹

山口市立井関小学校

五年

片岡知大

光市立三輪小学校

三年

水野愛美

山陽小野田市立高千帆小学校

三年

堀上大輝

- 命を守るヘルメット

岩国市立愛宕小学校

六年

山根百叶

- 「ばあちゃん、ゆっくり、安全に」

萩市立明木小学校

六年

永田聖弥

令和六年度 交通安全ポスター最優秀賞作品

中学校の部

最優秀

- 思いやりをもって

岩国市立岩国中学校

一年

岩崎杏莉

優秀

- 交通事故ゼロを目指して
- 「交通事故ゼロを目指して」

防府市立佐波中学校

一年

面村菊理

下関市立東部中学校

一年

石田彩

優良

- 安全な未来を守るために
- 「ながらスマホ」やめませんか

山陽小野田市立厚狭中学校

一年

深堀真央

下関市立日新中学校

一年

上田萌花

小学校の部

最優秀

みんなにありがとう

防府市立松崎小学校

二年 岸本 真穂

「きょうは何人にあいさつできるかな。」と
思いながら、まいあや、「おはようございます。
す。」とあいさつするお友達のことです。わた
しのこのおはんに、あんぜんをいつもみ
まもってくださっているみまもりたいの人た
ちがいっしょいます。わたしは、小学校に
入学してから毎日、あるところから下校をし
てきます。家へくからは、「よび出しをしな
いよ」にね。「いわれ、たんにんの先生からは、

「まきさんとなりたてかえりまじゅう。」と、み
まもりたいの人からは、「どろをわたるとき
には左右をきちんとみまじゅう。」と教えても
らっています。わたしは、「はいっしょ」とい
って、どろをあるへるときには、まわりのよう
すをよくみることで、きけんだなと思つたこ
ろは立ちどまってしっかり左右をみてかく
にんずることを気をつけています。たくさん
の人にみまもられて、わたしは今までじこも
なく、きけんなめにもあわずにとりげこつが
できています。

夏休みになって、わたしはおじいちゃんの
家に行きました。山口市とく地の串という場
所です。家のかくをあるいていると、こつ
つあんぜんのはたをみつめました。それに
は、シートベルトをきちんとつけることやお
さけをのんでんしなうことがかいてあ
りました。おじいちゃんにきこひんや、「へ

しのこつつあんぜんをよびかけるためのは
ただひ。「と教えてくれました。おじいちゃん
は、く地いきのこつつあんぜんをまもるた
めにはたらいている人だったのです。そで、
わたしは、おじいちゃんにくつかしつもん
をしてみました。

まず、どんなことがあるかを聞いてみる
とたくさんできました。とく地のこつつ
のようすをけいさつの人に聞いて、今、くし
では、すんでいる人があんにすごせてい
るかを知るのからはじまります。そこで、
はたを立ててよびかけたり、地いきを車でパ
トロールをしたりしてけんていす。

おじいちゃんがこのことをはじめた今か
ら十五年へつ前、いすは、いすのことが多かつ
たそうです。だから、「いすへいす」のこやいは
なくなつてほいら。みんながあんに
生活してほいら。「いすなながいからいすのこ

とをはじめたそうです。今ではこやいはん
が少なくなつてきているからつれいら。「と
と、話をしてくれました。わたしは、おじい
ちゃんのことをすごいと思いました。おじい
ちゃんがかくのことを見まもっているからじ
こがへつてきているのだろつと思ひました。

わたしたちがあんに生活できるのは、
あんぜんのねがいをもつたたくさんの人たち
に見まもられているからだと思ひます。だか
ら、一人ひとりがこつつあんのルールをまもる
ことが大切です。わたしは、どろをわた
るときにはぜつたいに左右のかくにんをしま
す。

守るルール、守るつゆ命

防府市立小野小学校

四年 吉原 叶梨

「行ってきません。」とわたしは言いつつ、「行っておかえり。」と返事をしてくれます。この言葉で毎朝母と祖母は、わたしと弟を学校へ送り出してくれます。わが家では昔から「行ってらっしゃい。」ではなく、「行っておかえり。」と言います。そこには、元気でぶ事に帰ってくるおつにこのねがいがこめられています。

わたしはニュース番組を見ながら朝のじゅんびをします。その中で今日もまた、登校中の子どもが交通事故にあうというニュースが報じられていました。そのニュースを見るたびに母は、「二人とも気をつけて学校にいかんやいけんよ。こっちが気をつけちゃっても車がとび出してくるかもしれんけえね。」と言います。

小野小学校への登校班のメンバーは現在五人です。ですが、週に二回ほど「見守り隊」のボランティアの人が、安全に通学できるよ

う、いっしょに歩いてくれます。校長先生も

校門の前で、元気なあいさつでわたし達を出むかえてくれます。わたしは「見守り隊」の人がいっしょに登校してくれる日は、とても安心できるので、感しゃの気持ちでいっぱいです。しかし、わたしの住む小野地区は高れい化や住む人がへってしまい、見守り活動をしてくれる人が不足しているという話を聞きました。わたし達が安心して登校するために「見守り隊」は、なくてはならないそんざいで。ですが今のじょうきょうから考えると、「見守り隊」の人たちがいる間に、わたし達の交通安全に対する意識を高めたり、登校班で人にたよらずに、自分達の命は自分達で守ることも大切になると思います。通学路にひそむきけんや交通ルールについて、学校のじゅぎょうや地区児童会で先生から話を聞いたり、みんなで話合いました。わたしの通学

路には歩道や横だん歩道はありません。歩道がないため、せまい白線の内がわを横に広げられないように一列になって、班長の後ろを歩きます。横だん歩道やもちろん信号機もないので、左右を何度もかくんにしてわたります。今、通学路には田んぼの区画整理のためにダンプ等の大型の工事車両が多く出入りしています。わたし達からは大きな車両は見えていますが、運転手からは小さな小学生は見えていないかもしれません。死角についてニュースでやってきたことを思い出しました。相手からどう見えているだろうと想像しつつ、行動することが大切だと思います。

また、ニュースでおいしいちゃんやおばあちゃんが運転する車が事故を起こすことがふえていると聞きました。おいしいちゃんやおばあちゃんは長い間車を運転してきたので、運転が上手だと思っています。しかし年を取ると、

いろいろなことが少しずつおぼろしくなることがあります。たとえば、年をとると体の動きが少しゆっくりになったり、目も耳も少し悪くなって、反応が遅くなる場合があります。運転するときに、信号を見逃してしまったり、他の車や歩行者に気づかないことがあるかもしれません。こうしたことが原因で、事故を起こしています。

家の近所でも、おいしいちゃんやおばあちゃんが車を運転しているところをたくさん見かけます。近所には買い物ができるスーパーがなく、バス停もないので移動手段は車しかないのだと思います。近所に住む一人ぐらしのおばあちゃんは、数年前に車の運転を止めました。今でも車がないと不便だと言っていました。今でも自分が事故を起こすかもしれないという不安もあったそうです。おばあちゃんの家には、移動スーパーが来ていたり、病

院の送迎付き通院サービスを利用されています。車がなくても不便に感じないサービスがこれからもっとふえれば、高れい者が不安を感じながら運転しなくてもすむと思います。みんなが住みやすい街づくりをするのも、事故を防ぐ大切な一つの方法だと思います。おじいちゃんやおばあちゃんが長生きして、元気にすごしてもらいたいことがわたしのねがいでもあります。

交通安全は、わたし達一人ひとりが意識して行動することで、守られるものです。わたしに大切な家族がいるように、相手にも大切な家族がいます。みんなが悲しい思いをしないようにするためには、ちょっとだけならいいだろうと運転中にスマホを見る、だれも見えないから大丈夫といった信号むし。こういった自分勝手な行動がなくなれば、悲しい事故は入ってくると思います。小さな心がけ

ときは、車がきていなかったからだいじょうぶでした。

でも、そのときは、お友だちとけんかになったり、おこられることがわけて、お友だちにちゅういをするのができませんでした。もしそのときに車がきていたら、車にひかれて大きなけがをしたり、しんでしまっていたかもしれません。そのときのことを思い出すと、いまでもとてもいやわらうかっています。

テレビでいじめもがじいじにあつたというニュースがながれると、もしいじめががじいじにあつたらとかがえることがあります。

もししんでしまったら、お友だちといっしょにあそぶこともできないくなるし、かぞへにも会えなくなってしまう。そのうち、いじめがなくなるといってしまつたら、いじめがなくなってしまう。だから、これからもぜったいにおうだんほどうやどろをわたるときはしんごうをまもって、右左

が大きな安全につながります。

明日もまた「行っておかえり。」母の言葉をお守りに元気に学校へむかいます。

優 秀

いのちをまもるために気をつけたいこと

周南市立徳山小学校

二年 重安 優奈

わたしは、おうだんほどうやどろをわたるときには、かならず右左をたしかめてから手をあげてどろをわたるようにしています。

一年生るとき、いっしょに学校からかえっているお友だちが、赤しんごうでおうだんほどうをわたったり、とつぜんはじってどろにとびだしたりしたことがありました。その

をしっかりたしかめてから、手をあげてどろをわたるようにしんごうを思いました。

また、お友だちががじいじにあつてしまつても、とてもかなしいので、これからは、しんごうをもしたり、どろにとびだそうとしているお友だちがいたら「車がくるかもしれないからあぶないよ。」と、ぜったいに声をかけようと思つています。

これからもルールをしっかりまもって、お友だちやかぞへとたのしむじいじだいたい。

おうだんほどうは手をあげて

山口市立井関小学校

二年 片岡 直之

あつが、こつ通あんせんでふだんから気をつけていることは、おうだんほどうで、かならず手をあげてわたることで。学校に行く

ときだけではなく、家ぞくでどこかにお出かけしたときにも、ぜったいに手をあげてわたります。手をあげると、車のうんてん手さんに、「ごもがおうだんほどうをわたりたいんだなと気がついて、とまってもらえるからです。」

ぼくは、学校に行くとき、いつも家のそばのおうだんほどうをわたっていきます。見まもりたいの人が、黄みどり色のはたをあげ、ぼくとおにいちゃんが大きく手をあげて、わたりますと車に知らせます。そうすると、車ごとまって、先に通らせてくれます。わたりおわったら、通らせてくれたおれいに、車の方をむいておじぎをします。車ごとまってくられて、ぼくたちもうれしい気もちになるし、おれいをしたら、車の人もとまってあげてよかったなと嬉しい気もちになると思います。

手をあげて、車にわたりたいことをつたえ

ことです。これからも、おうだんほどうでは、車に見えやすいように大きく手をあげて、わたりたいというハンドサインをして、車がちゃんとまったかをかんにんしてから、気をつけてわたります。こう通あんせんで、たのしいまい日をすごしたいです。

「ありがとうの気持ち」

周南市立徳山小学校

四年 武居 玄樹

ぼくの通学路には、信号のない横だん歩道がたくさんあります。学校の行き帰りに横だん歩道をわたる時、止まってくれた車に「ありがとう」の気持ちをこめて、おじぎをしながら急いでわたります。「急いでいるのに止まってくれたんだから、少しでも早くわたらなうしちゃいます。」

るのをハンドサインというんだよ、とおかあさんが教えてくれました。そういえば、テレビを見ているときに、おもしろいコマーシャルを見たことがあります。男の人と女の人がおうだんほどうをわたるうとしていて、男の人ははずかしくて手があげられなかったけれど、女の人がシャキーンと大きく手をあげて、車ごとまってくれたという「コマーシャルです。その後、男の人は女の人に「はっきり手をあげなさい。」と、おつられてしまいます。山口けんでは、おうだんほどうでハンドサインをしようにといううんどうをしているそうです。ぼくがまい日やっついでいふやういふ話です。とくにぼくたち子どもは小さいので、車のうんてん手さんには気づいてもういかにいかにです。せの高いトラックだったら、もっと見えにくいと思います。車はきつくとまってくれるだろうとかがえるのは、とてもあぶない

また、ぼくが家の車に乗っている時、歩道の前で止まったら、会しゃくをしながら小走りであつて行く人を見かけることがあります。そんな時は、ぼくの方もうれしくなります。「わあ。あの人、会しゃくしてくれた。そんなに急がなくていいですよ。どうぞ、ゆっくりわたって下さい。」会しゃくする人も、おられる人も、とても気持ちよくなると思います。

でも、ぼくが習い事に急いで行っている時、スマートホンを見ながら、まわりも気にせずにはやく横だん歩道をわたっている人を見かけると、「もつと急いでわたって。」と思うことがあります。ながらスマホはあぶないので、「車が近づいて来ているよ。スマホから目をはなして、周りを見てー」とも伝えたいです。

それから、特に朝は車の台数が多く、ものすごいスピードで走っていく車がいって、こわ

みんなのでつくる交通安全

山口市立井関小学校

五年 片岡 知大

い思いをしたことがあります。急いでいるのはわかるけれど、時間にゆとりを持って行動すれば、やさしい気持ちになれると思います。駅前から続く大通りにも、信号のない横たん歩道がたくさんあります。ぼくは自転車に乗ってよく通るのですが、パトロールをしてくれているパトカーにたびたび出会います。「うしろを回りをしつて、ありがとうございます。」と心の中でひざまぎながらすれちがいます。パトカーがいてくれると、とても心強いです。車の運転手さんが、いつもよりやさしく感じがするからです。「止まらななな、あひがひ。」「ゆひがひ、あひがひ。」ぼくはこれからも「あひがひ」の感じの気持ちをわすれずに、すまじつていきたいと思っています。そして、ぼく自身が自動車を運転するようになった時には、心にゆとりを持って安全運転を心がけたいと思います。

今年の春ごろ、お父さんが免許の更新に行きました。ぼくは、これまで免許は、一回取れば、ずっと使えるものだと思っていました。しかし、お父さんに、新しい免許証を見せてもらったら金色の枠に有効期限が書かれていました。有効期限は令和十一年までとなっていて五年間使えるということが分かりました。

ぼくは、免許を更新する時は、検定みたいなものが存在するのかなと思って、山口県警のホームページで検索してみました。すると、交通違反のある、なしや、年齢、初めて免許を取ったからの年数などによって、講習の内容や時間がわかれていることが理解でき

とです。車が止まってくれるだろうと思って飛び出したり、道路の近くでボール遊びをしたりすると、いくら運転する人が気を付けていても事故につながってしまいます。

次に、運転する人に気付いてもらいやすくすることです。横断歩道をわたる時は、大きく手を挙げたり、黄色い安全帽やランドセルカバー、交通ワッペンを正しく使うことで、背の低い小学生でも車に見えやすくなります。

最後に、ぼくたち小学生が運転手になる自転車に乗るときは、絶対にヘルメットをかぶるといことです。ヘルメットをかぶっていないと死亡率が約三倍になるというデータを見たことがあります。家の近くで少し乗るだけだからかぶらなくていいや、と思わずに、どんな時も、必ずヘルメットをかぶります。

このように、運転する人も、ぼくたち小学

まず、道路で急な動きをしないといこと、山口県総合交通センターという施設があることが分かりました。地図を見てみたら、よく通る場所で、なぜ車が通らないのに道路や信号があるのかというも思っていた所でしたが、このページを見て、運転技術を検査する場所なのだと分かりました。このように車を運転する人達は、定期的に安全運転ができるような訓練を受けていることを知り、ぼくたち小学生が、どんなことに気を付けたらよいか考えてみました。

まず、道路で急な動きをしないといこと

生それぞれが、交通安全に気を付けなければならない、事故のない安全なまちをしっかりとつくりたいと思います。

優 良

交通安全をまもろう

光市立三輪小学校

三年 水野 愛美

どうして、シートベルトをつけないといけないのだろう。シートベルトは、きついし動きにくいからわたしは、シートベルトがいやです。でも車にのったら、かならずお母さんお父さんがシートベルトをつけたか、かくにんします。なぜ、つけるのだろうかと考えてみて、わたしはいのちをまもるためだと思います。シートベルトをしてなかったら、

きゅうに車が止まってしまったら、外にほうり出されたり、前のせきにぶつかってケガをするからだと思います。お母さんお父さんの子どもの時は後のせきのシートベルトは、しないことが多くてだれもちゅう意をすることは、ほとんどなかったそうです。だけど、じこがおこった時に、シートベルトをしていれば大ケガをしなくてもいいじこが、たくさんあったと聞きました。今は、シートベルトは後のせきもするようになったので、昔みたいにシートベルトがげんいんで「大ケガをする人が少なくなつたな。」と言っていました。わたしはそれを聞いて、シートベルトが大事だと思いました。安心します。動きにくくてもやだなと思っていたけどきちんと、つけようと思います。

もう一つわたしが交通安全で大切だと思つことは、よゆうをもつて運んでんすることです。

「交通安全を守ることについて」

山陽小野田市立高千帆小学校

三年 堀上 大輝

です。お父さんは仕事に行くのに運んでんをしています。運んでんつてもつかれるんだよと教えてもらったことがあります。お父さんは仕事でつかれて帰つて来た時は、早くねます。遠くにお出かけしている時は、きゅうけいをよくとりまします。わたしも運んでんするようになったら、お父さんみたいに安全に運んでんをしたいです。

交通安全について家々で話をしてみても、交通安全についてたくさんあることを知りました。わたしの家ぞくは自でん車で学校に通つお姉ちゃんたちや、車の運んでんをするお父さんお母さん、歩いて学校に登校するわたし、それぞれに交通安全があります。全部大事なルールです。みんながルールをまもることので、安心して外に出て元気に帰つて来てくれるとうれしいです。わたしは、交通安全のルールをまもります。

ぼくがスイミングスクールに行く時通る道に、いくつか横断歩道があります。そのうちの一つに、夕方になると近くの工場で働く人たちが仕事を終え家に帰ると中にわたる横断歩道があります。工場で働く人たちは、横断歩道をわたりたいのに、たくさん車がそれに気づかずに早いスピードで通つて行きまします。でも、ぼくのお父さんは横断歩道の手まえて車を止めました。お父さんはぼくに、「横断歩道をわたりたい人を見たら、車はその手まえて止まらなさいといけななんだよ。」と言いました。ぼくはいつも車にのって色々な場所に出かけているけど、道路は車が走るだけではなくて人や自転車がわたるための物でも

あることを知りました。それだから、交通ルールを守らないと大きな事故につながるのでも大切なことだと思いました。

山口県は、お年よりの数が全国でも多い県だと聞きました。お年よりは歩くスピードが遅いので、横断歩道をわたるのにも時間がかかります。車が早いスピードのまま横断歩道の手まえで止まらずに進むと、お年よりは怖くてわたることもできません。でも、ある時ぼくがその横断歩道を車で通ると、お巡りさんがその辺りで車が交通ルールを守っているか取りしまりをしていました。パトカーを見ると、車の運転手さんは横断歩道のまえで止めました。そのおかげで、工場で働く人たちや歩くスピードが遅いお年よりは安心して道路をわたることができました。ぼくはお巡りさんはすごいなと思いました。ぼくはお巡りさんがいなくても車を運転する人が、交通

ルールを守り、誰もが横断歩道の手まえで止まるようになってくれたらいいなと思いました。

このように、ぼくがいつも使っている道路には交通ルールがあります。この交通ルールを道路を使う人たちみんなが守ることで、安心安全な社会となり、車の事故で人がけがをすることがなくなるのだと思いました。これからは、ぼくが車にのっている時は横断歩道をわたろうとしている人がいないかよく見て、運転してのお父さんとお母さんに気をつけて運転してねと声をかけようと思います。それから、道路をわたろうとしているお年よりを見かけたら、一緒に手を上げて横断歩道をわたってあげたいと思いました。

命を守るヘルメット

岩国市立愛宕小学校

六年 山根 百叶

私はヘルメットの大切さについて考えました。自転車に乗っている人を見ると、子供はほとんどヘルメットをかぶっていますが、大人はヘルメットをかぶっている人が少ないです。私のクラスの人は、「見た目がいや」、「かぶりたくない。」という声を聞きます。私は、「自分なら大丈夫。」と思わない、見た目を気にせずヘルメットをかぶった方がいいと思いました。

そこで私は、ヘルメットをかぶる大切さについて考えました。ヘルメットは、自転車などで転んだときに頭を強く打たせないために使います。ヘルメットをかぶって頭を打つよりも、ヘルメットをかぶらずに頭を打つ方が

危険です。ヘルメットの大切さを知れば、ヘルメットをかぶる人が増えると思います。

もしも、ヘルメットをかぶらず、事故にあっってしまうと、ケガではすまなうと思いました。ヘルメットをかぶらずに頭を打ってしまうと、命がなくなるかもしれません。一度なくなった命はもとにはもどりません。亡くなった人の家族、周りの人、たくさんの方が悲しみます。私も、家族、周りの人を悲しませたくありません。

なので、ヘルメットをかぶることはとても大切なことだと思いました。ヘルメットをかぶることは、大人、子供、関係ありません。見た目などを気にせず、ヘルメットをかぶり命を守りましょう。

次から私は、ヘルメットをしていない人に声をかけようと思いました。「自分なら大丈夫。」と思つことは危険なことだと思ったので

これからも気を付けようと思いました。

「ばあちゃん、ゆっくり、安全に」

萩市立明木小学校

六年 永田 聖弥

僕のおばあちゃんは、七十歳を過ぎています。シルバーマークを付けて、僕の習い事などの送り迎えなどをしてくれます。とても慎重なおばあちゃんはとても安全運転です。急いでいる時も車が道路で出せる速度をきちんと守ります。僕のおばあちゃんの車の後ろには、「ゆいっひだっひいじやないか婆ちゃんだもの」というステッカーがはられています。そして、自分の後ろにたくさん車の車が連なっているといつでも広いスペースに車をよけて「ゆいっひだっひいじやないか婆ちゃん」と言っているの車に道をゆずっています。僕はおばあ

ちゃんのそんな行動を疑問に思っていました。そこで、僕はおばあちゃんに聞いてみました。おばあちゃんは「自分や家族が事故に巻き込まれないようにするためよ。」と答えてくれました。

夏休みに入って二週間後のことです。僕と従弟とお父さん、おじさんと博物館に行く途中のことでした。正面衝突の事故に出合いました。交通事故は、僕が思っていた以上に怖いものだと感じました。

交通事故のニュースは、毎朝テレビを見ていると僕の目に飛び込んできます。僕は、それを見るたびにとても悲しくなってきました。高齢者から幼い子供まで、年齢問わずありとあらゆる人が交通事故で亡くなっています。

僕が住んでいる山口県でも、交通事故が多く起きています。安全運動期間中に事故が多くなると交通事故多発警報が発令されます。

僕は、自転車にたまに乗ります。小学六年生なので、小学校区内は自転車で移動できます。

交通事故はいつ起こるか分からないので、交通事故を無くすことは無理です。でも、交通事故に巻き込まれないようにすることはできます。例えば、僕のおばあちゃんみたいに広いスペースに車をよけて後ろの車に道をゆずったり、安全運転をすることです。僕は、自転車に乗る時は、必ず命を守るヘルメットを被っています。毎年、学校で四月にある交通安全教室では、駐在さんが来られて自転車のルールを勉強します。交通事故に巻き込まれないようにするための対処はできます。少しでも交通事故を減らすためには自分自身で気をつけることです。交通事故に巻き込まれないためにはどうしたらいいかしらっかり考えて、その考えたことを実行する事によって交

通事故を減らせると思いました。

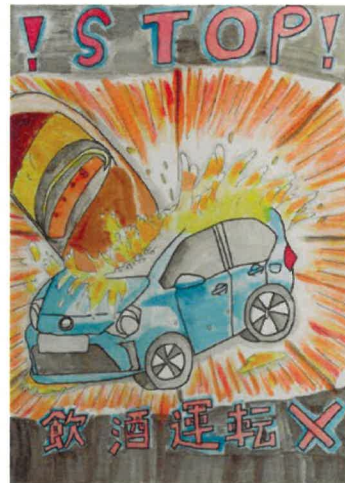
車や自転車はすごく便利な乗り物です。でも、使い方を間違えてしまうと交通事故や大きな事件になってしまうので、ちゃんと決められたルールを守って運転する事が、とても大切です。

交通事故は起こした家族だけでなく、交通事故にあった家族の幸せをもつぼってしまいます。家族のきずなさえもつぼってしまつ交通事故に巻き込まれないためにも、また、起こさないためにも交通ルールをきちんと守っていききたいです。





美祢市立大嶺小学校
6年 玉井 優羽



美祢市立伊佐小学校
5年 原田 莉帆



周南市立岐陽中学校
1年 片原 梨花



周南市立德山小学校
3年 清水 玲那



下松市立下松小学校
2年 川向 侑利



宇部市立常盤小学校
4年 関 七海

交通安全ポスター最優秀賞作品



下松市立下松中学校
2年 武居 知佐



長門市立菱海中学校
3年 植木 風花



山口県立防府西高等学校
2年 伊勢田 汐音

中学校の部

最優秀

思いやりをもって

岩国市立岩国中学校

一年 岩崎 杏莉

私の母は、近所のおばあちゃんが杖をついてゴミ出しに行くのを見て、ゴミを代わりにゴミ出し場まで持って行ってあげている。

おばあちゃんは足が悪く、道路を渡るのもゆっくりになってしまいます。もしも、スピードを出した車や、自転車が来ると危ないし、途中で転んでしまうと大変だ。

おばあちゃんには、「いつもありがとうね。」と喜んでくれたそうです。

そんな話を母から聞いて、心が温かくなっ

た。
私も、小さい子どもや、体の不自由な人、お年寄りが道路で困っているのを見かけたから、助けてあげられる人になりたい。

数年前になるが、目の不自由な人が、白杖を持って歩いているのを見かけたことがある。後ろを歩いていると、段差や、道の曲がり角で戸惑っているようにも見えた気がする。

そんなとき私は、声をかけて助けてあげるべきか迷ってしまった。結局、何も行動することはできなかった。

そのことを帰って母と話したとき、「声をかけるタイミングは難しいね。」と会話したのを覚えている。

もしもまたそういうことがあったら、本当に困っているのかをまずは判断して、「何かお

手伝いすることはありますか？」と聞いてみてもいいのではないかと思います。

それで、事故を防ぐことができたなら、勇気を出してよかったと思えるはずだ。

そんな身近な場所で、ちょっとした思いやりをもった行動が、交通安全にもつながると思った。

私の通学路では、地域の方や先生が、横断歩道や危険な場所に立ちこんでくれる。

通勤・通学の時間帯は、交通量も多く、急いでいる車も多い。

横断歩道があっても、とまってくれない車もある。

「井戸くへれるはず」と思うことで、横断歩道を渡る人をたまに目にする。危ない。

歩行者が横断歩道を渡ろうとしているのにとまらない車は、交通違反となるぞうだ。パトカーが車をとめているのを見かけたことがある。

るときだ。

つい話しながら、横に並んで自転車を運転してしまっている。

自転車も車輛だということをおぼえずに、歩道を通るときは自転車を押して歩いたり、車道を通るときは必ず一列になって、安全な速度で自転車に乗るようになりたい。

一旦停止や、信号などの交通ルールをしっかり守るといふことにも気をつけなければいけない。

また、自分本位である音楽を聴きながらの運転や、携帯を操作しながらの運転、傘をさしながらの運転も絶対しないようにしたい。

親せきの警察官が、ながら運転は危ないと言っていた。

最近では、耳にイヤホンをつけている人が多く、事故につながるケースが多くなっている。

こんな自分本位で身勝手な行動が、歩行者

ある。

そんな中、安全に通学できるように、毎日通学路で見守ってくれている人がいるからこそ、事故にあわずに通学できている。

「ごんごんしゃう」「おかせり」と横断歩道で言ってもらえることは、当たり前なことではなると感じている。

私たち子どもは、感謝の気持ちをもって、交通ルールを守って通学するようになりたい。

誰もが、「誰かのために」と行動するんじができたなら、安心して安全な生活ができるはずだ。

よく、思いやりをもって運転しようといふフレーズをきく。

私も、自転車にたまに乗ることがある。車を運転することはまだないけれど、歩行者優先ということを忘れずに自転車に乗りたいたいと思う。

例えば、友達と一緒に自転車でもかけてい

を巻き込んでしまったり、自分自身も危険な目に合うことになる。

「だぶん大丈夫だろう」といふような軽い気持ちから、いろいろな人の一生を狂わせてしまっていることがあるといふことを忘れてはいけない。

まずはできることから。自分のことだけではなく、周囲の人の安全も考えて生活していきたい。

どんなときも、思いやりをもって。

優 秀

交通事故ゼロを目指して

防府市立佐波中学校

一年 面村 菊理

突然ですが、自転車に乗る上で大切なこと

は何だと思えますか？じっくり考えてみるとたくさんあると思います。その中でも私が最も大切にするべきだと考えた四つのことを紹介していきます。

一 二田は、「しっかりと安全確認」です。自転車の事故で一番多いのは「飛び出し」によるものなのです。飛び出し事故の例としては、信号や標識・標示に従わない、狭い道路から広い道路へ出る際の安全不確認などたくさん事例があります。これくらいはいいだろうという浅薄な考えがとりかえしのつかない大きな事故につながってしまふ場合があります。日ごろから事故なく安全に乗るという意識を持って自転車で乗るよう心掛けていきましょう。

二 二田は、「乗る前には必ず点検」です。自転車の点検には自転車を使用するときとその都度行う日常点検と、自転車各部の機能を一

しよ。

三 二田は「ヘルメット着用」です。もちろん事故に遭わないというところが一番良いことではありますが、絶対に遭わないとは限りません。もし、遭ってしまったとき、致命傷を負いやすい部分は頭部です。そこで、ヘルメットはもしものときに頭部を守ってくれる自転車に乗る上で必要不可欠なものだと分かると思います。今はヘルメットの着用の努力義務が年齢関係なく、すべての人に課されています。帽子型のヘルメットなどおしゃれなものが増えてきているので、まだヘルメットを着用していない人は、自分の命を守るためにヘルメットを着用してみてはいかがでしょうか。

四 二田は、「ながら運転をしない」です。最近頻繁に目にするのは、携帯電話（スマホ）を触りながら、傘・日傘を差しながら、ヘッ

年に一回自転車安全整備店で日常点検よりもくわしく調べる定期点検があります。乗る前に行くのは前者の日常点検です。特に点検すべき部分は「フタラハシャベル」のブレーキ、タイヤ、ライト（前照灯）、ハンドル、車体（サドル、チェーン）、ベル（警音器）です。ブレーキは前・後輪ともよくきくか。タイヤはしっかりと空気が入っているか、すりへっていないか。ライト（前照灯）は明るくつくか。ハンドルは前輪と直角にしっかりと固定されているか。サドルはまたがってハンドルを持ったとき、両足先が地面につき、上体が少し前に傾くよう調節され、固定されているか。チェーンはゆるすぎているか、きつすぎているか。ベル（警音器）はよく鳴るか、など点検してみてくださいか悪いところがあったら、すぐに整備し、自分で整備できないときには、自転車安全整備店へ整備をお願いしま

ドホン・イヤホンで音楽などを聴きながら、などです。携帯電話（スマホ）を使いながらの運転は、周りを見ることができなくなったり、バランスがとりにくくなったりしてしまいます。傘・日傘を差しながらの運転はバランスがとりにくくなったり、前が見えにくくなったりしてしまいます。ヘッドホン・イヤホンを使いながらの運転は車からのクラクションが聞こえないなど、周囲の音が聞こえにくくなってしまう。これらの通り、ながら運転はとても危険です。ながら運転をして事故に遭って病院ですぐすか、安全な運転をして今後も楽しくすごすかだと、もちろん後者の安全な運転をするを選びたいと思います。このことは自転車運転手だけでなく、自動車、トラックなどの運転手にも言えることです。ということ、全ての車両の運転手は今後のこと、しっかりと考えて安全に十分気を付け

て運転しまじょう。

私は、この作文を書いている途中、「そういえばこんなことも大切だな」と新たな発見がありました。私が紹介した「しっかりと安全確認」「乗る前には必ず点検」「ヘルメット着用」ながら運転をしない「の四つは、とても簡単に行えることです。そのため、まずはこの四つの実践をして、自転車で安全に乗ってもらいたいです。一人一人がしっかりと意識して交通事故ゼロを目指していきまじょう。

「交通事故ゼロを目指して」

下関市立東部中学校

一年 石田 彩

私は学校からやや遠い区域に住んでいるため、この春から自転車通学となりました。し

かしながら一学期は、殆ど毎日車で送迎してもらっていました。

元々運動が得意ではない私は、小学校の頃から殆ど自転車に乗ることはありませんでした。中学校入学間近に控えた春休みに、父と何度か自転車で中学校までの行き帰りの練習をしました。入学するとランドセルが十倍になったような重さのリュック。体の小さな私は、背負うだけでも大変な上、慣れない自転車。そんな不安の中、通学初日からリュックの重さにハンドルを取られてしまい、バランスを崩し、何度もこけそうになってしまいました。

心配した両親、祖母が何かあってからは遅いからと、行きは父、帰りは祖母が毎日送り迎えをしてくれています。

祖母は昔、初代交通巡視員という、道路交

警察職員だったそうです。当時は巡回の仕事でパトカーや原付にも乗っていたかっこいい祖母。しかし職務中に原付で転倒して足に大怪我を負ったそうで、今も傷跡が残っています。そんな祖母も今年後期高齢者となり、先日自動車学校で「高齢者講習」を受けたそうです。自動車学校へ行き、高齢者事故の傾向と対策などの講義を始め、視力検査、認知症チェックテスト、技能テストなどを受けて帰ったそうです。初めは面倒くさがっていた祖母でしたが、思ったよりたくさんの方が講習を受けていたそうで、安堵の思いだったようです。祖母の経験を通して、こうした講習も高齢者の交通事故が増えている現在において、事故を未然に防ぐ上で必要不可欠なことだと感じました。

そんな祖母が最近私の送り迎えをしてくれた際、誤って車の後部をポールにぶつけてし

まったそうです。幸い怪我はなかったものの、車には傷跡が残っていました。あの日私が部活に遅刻しそうになったから、隣で運転していた祖母を焦らせてしまいました。「しまった・・・」後悔の念。しかし祖母は、いつも通り「お帰り、大丈夫だからね。」と喜んでくれました。今回は無事で済んだけれど、もし大きな事故になったら、もし祖母がいなくなったら、と思うと背筋の凍る思いでした。

父とも相談して、夏休みの部活動は、雨の日以外自転車で行くことにしました。少しでも祖母の負担を減らしたいと思ったからです。私もどこか優しい祖母に甘えてしまっていたので。部活動だけの登校は荷物も少なく、通りに人も少ないので走り易いです。いつもと同じ通学路なのに、何だか閑散としていて、安心して走行することができます。が、油断は大敵。入学時の初心者講習で学んだ通り、

反射ベルト、ヘルメットを必ず装着し、左右の確認を怠らず、時間と気持ちに余裕を持って安全運転を心がけようと思います。

父に「夏休みだから、一度自転車屋さんに寄って点検してもらおうじゃないよ。」と言われました。自転車を購入した際、店長さんに「時々タイヤの空気を入れたり、点検するから寄ってね。」と言われていたからです。一学期は殆ど自転車に乗ることはなかったのですが、夏休みの間に一度持つて行って、点検してもらおうと思います。定期的な点検も自転車に安全に乗るためには、自動車同様大切なことだと思います。自転車を所有しているからこそこの義務だと感じています。

もしも私が大きな事故をしてしまったら、両親、祖母を始め周りの皆が悲しい思いをするし、学校や自転車屋さん、想像よりももっとたくさんの人に迷惑をかけてしまいます。

防止のために一人でも多くの人に積極的に声をかけできるよう努めていきたいと思っています。

一人一人が気を付けて、自身の命を守り「事故ゼロ」という日が来るように心から願っています。

優良

安全な未来を守るために

山陽小野田市立厚狭中学校

一年 深堀 真央

交通安全と聞いてすぐ思い浮かんだのは、横断歩道です。私は登下校時に、信号機のない横断歩道を二つ渡ります。横断歩道の前立っても、なかなか車がとまってくれず、多い時で九台くらい通過してはく日があります。しかも、かなりのスピードが出ているの

想像すると自転車に乗ることさえ、怖くなります。けれど、その恐怖心こそ本当は私達が一番持たなければならぬものなのかもしれない。

テレビのニュースや新聞でも、毎日のように事故を耳にします。事故で亡くなる方もたくさんいます。何だか命が一瞬にして簡単に奪われていくようで、切なく胸が苦しい思いです。自分の命は誰とも共有できないし、自分だけのたった一つの命なのです。

では、私達はどうしたらその命を救えるのでしょうか。私から始めようと思います。まずは自身の命を。それから命を守る輪を広げていけるよう中学生として出来ることを考えてみようと思います。まず私達がボランティア活動で取り組んでいる朝の挨拶運動。時々ではありますが横断歩道や駅に、登校前に先生と一緒に立っています。そこでも事故

で怖いからです。しかし、優しいドライバーもいて、かなり手前からスピードを落とす「ビュン」と手で合図してくれます。その時は、その優しさに嬉しく気持ちになります。

テレビの宣伝で「横断歩道では一時停止しよう」「横断歩道は歩行者優先です」と見たことがあります。信号機のない横断歩道における一時停止率を調べてみると、山口県の令和五年度では四十八・五パーセントでした。全国平均よりは、三・四パーセント上回っています。山口県の令和元年度を見てみると、なんと九パーセントでした。これは、全国平均よりも、八・一パーセント下回っています。とはいえ、横断歩道における一時停止率は、全国的に毎年少しずつ上がってきているようです。

私が親の車に乗っていたとき、横断歩道の前には小学生がいたので一時停止しました。し

かし、なかなかその小学生は横断歩道を渡りませんでした。横断歩道を挟んで、友達と話をしていたようです。車に乗っていたら、横断歩道を渡るのか渡らないのかが、よく分かりませんでした。

たまたま家に、夏の交通安全県民運動のチラシがありました。そのチラシには「横断歩道ハンドサイン運動」と書かれてありました。信号機のない横断歩道において、ドライバーと歩行者双方のハンドサインにより、お互いの意思疎通を図る運動を行うというものでした。ドライバーは「お先にどうぞ」「歩行者は」渡ります」とハンドサインを出すことにより、事故防止になります。お互いに分かりやすく、気持ちよくできるから良い考えだと思いました。これから横断歩道を渡るときは、ただ立って待っているだけではなく、手を挙げたりドライバーの顔を見たりして意思表示を

したいと思います。

交通安全と聞いて次に思い浮かんだのは、ヘルメット着用です。令和五年四月一日から、自転車に乗るすべての人にヘルメットの着用が努力義務になりました。私は徒歩通学ですが、遊びに行く時などは自転車に乗ります。正直、髪は崩れるし暑いし、進んでヘルメットを被ろうとは思いません。しかし、ヘルメットを被っていないかで、致死率が約八十パーセントも変わってくるそうです。私は自転車で大きな事故は起こしていませんが、カーブや段差でバランスを崩して転倒したことがあります。打撲や擦り傷をつくって、痛い思いをしました。自転車が関係した交通事故を調べてみると、山口県の令和五年度では、負傷者が二百八十九人、死者が四人でした。場合によっては、頭を強く打ち、死んでしまうこともあるそうです。だから、

スピードやルールを守らなければ、自転車は思った以上に怖い乗り物だと感じました。ただ怖いと思うだけでは事故は止められないので、やっぱりヘルメットを着用するのが一番大事だと考えられます。ヘルメットの正しい着用方法は、自分の頭のサイズに合ったものを選び、しっかりと深く被り、あご紐は指が二本入る程度に締めるようにします。これからは、面倒でもヘルメットを必ず着用したいと思います。

このように、横断歩道ではハンドサインをしたり、自転車に乗るときはヘルメットを着用したりして、交通事故防止に気をつけたいと思います。みんなが基本的な交通ルールを守ることで、安全な未来を守ることができると思います。

「ながらスマホ」やめませんか

下関市立日新中学校

一年 上田 萌花

皆さんは「ながらスマホ」をしたことはありますか。スマートフォンを持っている人の七割以上が歩きスマホをしたことがあるというデータもあります。私も最近、自転車に乗っているときにスマートフォンを見ている人や、ショッピングモールで歩きスマホをしていた人が、逆向きのエスカレーターに乗ろうとしているのを見ました。親にも「歩きスマホをしてはいけない」と言われているので、改めてとても危険だと感じました。

そんな「ながらスマホ」が原因で事故にあうことも少なくありません。実際に、自転車でスマートフォンを操作しながら運転している、高さ一メートルの道路脇の用水路に転落

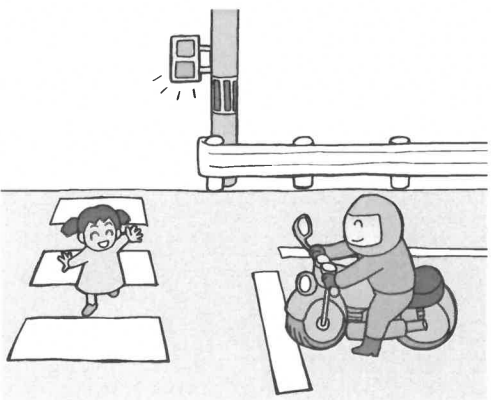
したという事故や、携帯電話を操作しながら歩いていた男性が踏切に進入してしまい、電車にはねられ死亡したというケースもあります。また、自分だけでなく周りの人も巻きこんでしまうという場合もあります。その事例として、高校生が携帯電話を操作しながら自転車で夜間に走行中、女性に衝突してしまい、重大な障害が残るケガをさせてしまったということがありました。二〇二四年に発表されたデータによると、年間一二二件もの死亡・重傷事故が起きているそうです。

このように「ながらスマホ」にはたくさん危険がひそんでいます。ながらスマホが危険なことは誰でも知っているはずですが、なぜ人はながらスマホをしてしまうのでしょうか。その理由として、メールなどの返信を早くしたいから、スマートフォンを見ることが癖になっている、などが挙げられました。こ

しておく、聞きたいときにいつでも聞けて便利ですね。何かしながらでも聞けるので、ながらスマホ防止に最適だと思います。このようなアプリを活用して、ながらスマホを減らしていけたらいいなと思います。

「ちよひとくひい見ても大丈夫だよね。」その油断が命に関わることだと改めて実感しました。今では、子供も大人もスマートフォンを持っています。一見、便利に思いますが、ルールを守って使わないと命にも影響をおよぼすということが分かり、とてもおそろしく感じました。今、ながらスマホをしている人にこの現状を知ってもらい、少しでもながらスマホを減らすことができればいいなと思います。

交通事故は、被害者も加害者も不幸になってしまうので、一人ひとりが意識し習慣づけることがとても大切です。他人事だと思わず



自分のできることをし、交通事故のない安心安全な社会になることが私の願いです。

の誘惑に負けて、ながらスマホをしてしまうているのです。ですが、ほんの数秒スマートフォンを見ていただけで重大事故につながる可能性が十分にあるのです。みんなで気を付けて、ながらスマホゼロを目指したいですね。「ながらスマホ」で事故を起こさないために、ながらスマホを防止する取り組みも実施されています。例えば、携帯電話会社から歩きスマホを防止するアプリが無料で配信されていたりしています。このアプリは、スマートフォンを見ながら歩いていると警告画面が出て、操作できなくなるというものです。強制的に歩きスマホをやめることができ、意識を持つこともできるので良いですね。また、ながらスマホをしなくても情報が得られるアプリも登場しています。このアプリは、保存したテキストを音声で再生してくれる機能がついています。気になるニュースなどを保存

点検整備を受けた自転車に乗りましょう。

- 自転車安全整備店で点検・整備を受けると、その証としてTSマークが自転車に貼付されます。年1回は点検整備を受けましょう。
TSマークには、賠償責任保険と損害保険の2つがセットになった1年間の付帯保険が付いており、もしもの時に安心です。
- お近くの自転車安全整備店へご相談ください。



	賠償責任補償限度額	被害者見舞金	傷害補償保険金額	
		入院15日以上 の傷害	死亡・重度後遺障害 (1～4級)	入院15日以上 の傷害
緑色 TSマーク	死亡・損害(制限なし) ※示談交渉サービス付き 限度額1億円	なし (賠償責任補償 により対応)	一律50万円	一律5万円
赤色 TSマーク	死亡・重度後遺障害 (1～7級) ※示談交渉サービスなし 限度額1億円	一律10万円	一律100万円	一律10万円

山口県では令和6年4月1日「山口県自転車の安全で適正な利用促進条例」が制定され、10月1日からは自転車損害賠償責任保険等への加入が義務化されました。

自転車を利用される方は、自転車損害賠償責任保険等へ加入しましょう。